



総務常任委員会とは

主に、総務課・未来戦略課・企画財政課・税務課・町民環境課・選挙管理委員会の行う事項について調査研究し、その課題に対応します。

委員紹介

高橋安子委員長、赤丸秀雄副委員長、高橋敬太委員、ササキマサヒロ委員、齊藤勝浩委員、廣田清実委員

安全安心なまちづくり

総務常任委員会の今期のテーマは、「公民連携で自治振興による安心安全なまちづくり」。10月16日から18日にかけて先進地を視察し、課題解決の糸口を探りました。

新潟県見附市

コンパクトシティ

持続可能性、今後のカギは

新潟県見附市は現在、超高齢化・人口減少を克服するスマートウェルネス都市のモデルとして、国からの助言を受けつつ持続可能な都市・地域の形成に取り組んでいる。

健康維持の意識浸透

少子高齢化社会への対策を20年前から着手。大前提に「市民の健康維持」を掲げ生活圏の配置変更やインフラ整備、公共交通の運行手段など役所



が行う事業コンセプトは「全て市民の健康」で意思統一されていた。この意識維持を図ることにより社会保障費の大幅な減額に成功したエビデンスが示された。当町でも早期に取り組むべき事案である。

新潟県三条市

意識と備えの大切さ

新潟県三条市は2度の水害を経験。過去の教訓から災害意識と備えの大切さを、この水防学習館で伝えている。

水害忘れず、学ぶ

新潟県三條市は2度の水害を経験。過去の教訓から災害意識と備えの大切さを、この水防学習館で伝えている。



啓発活動の充実

近年、度重なる豪雨災害に見舞われたことにより有事対応の見直しを实行。河川堤防の改良増設と人命救助第一の設備配置、そして危険体験施設の常設を行った。この啓発活動の充実が当町でも参考にするべき取り組みである。

神奈川県藤沢市①

リサイクルで環境保全

町民の意識を変える

リサイクルプラザ藤沢と北部環境事業所を見学。リサイクル意識を向上させる取り組みを学習した。

循環型社会確立へ

更なる3Rの確立に向けた分別回収の徹底慣行のため、市内に集積場を設けず自宅前排出回収を実施。新設された焼却炉においては、発電設備を有し年間億単位の売電を行い財源へ充当。発電した電力は無料で市民マイカーへの電源供給も行っていた。当町でも脱カーボン対応の3Rの強化取り組みを加速実行すべきと考える。



神奈川県藤沢市②

地域コミュニティとの

連携が不可欠

ノビシロハウス亀井野は、アパート・コミュニティスペース・地域医療の拠点のひとつになったユニークな『ごちゃまぜアパート』。支えあえる居場所、地域づくりの方向性を学習した。

新しい世代間コミュニティ

世代間の多様な考えを捉え、空き家対策と掛け合わせた居心地の良い居住空間確立を目指した施設運営の結果、入居者全員が満足する空間が確立された。この新しい形のコミュニティ構築成功事案は当町でも参考とすべき取り組みである。

産業建設常任委員会

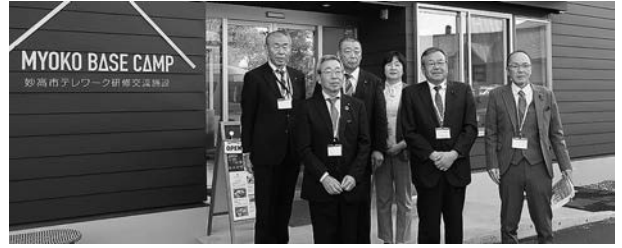
空き家の可能性を創造する

産業建設常任委員会とは

主に、産業観光課・道路住宅課・上下水道課・農業委員会の行う事項について調査研究し、その課題に対応します。

委員紹介

吉田喜博委員長、藤原信悦副委員長、木村豊委員、小笠原佳子委員、山本好章委員、村松信一委員



地域産業・経済の活性化

産業建設常任委員会の今期のテーマは、「地域産業・経済の活性化を図り移住定住を促進するまちづくり」。10月23日から25日にかけて先進地を視察し、課題解決の糸口を探りました。

新潟県佐渡市

相談・体験・移住

「気軽にできる」を目指す

人材創出社会を目指し、多様な人材・企業が活躍できる「企業の島」と、気軽に相談・体験・移住できる「移住の島」

の実現に向け、空き家現況調査を実施し、今後の利活用・対策の検討、計画の見直しなどを進めている。

地元集落と連携し、活用要望のあった民間空き家を定住



体験住宅にしたり、地元商店街にある民間空き家をITベンチャー企業の拠点に生まれ変わらせたりするなど、先進的事業の実情を学んだ。

後継者育成の工夫

I・Uターンにより移住安定が図られ、空き家対策にも応用しつつ関係人口が増加し、後継者育成に拍車がかかるような工夫がされていた。

新潟県妙高市

仕事と観光を掛け合わせ

新たな地方創生を

新潟県妙高市にあるテレワーク研修交流施設「MYOKO BASE CAMP」を見学。仕事と観光の要素を取り入れたワーケーションや、副業人材と市内事業のビジネスマッチング、安心して働ける環境の創出とテレワークの



普及拡大による働き方改革の推進を図り、「ひと・しごと」の好循環を生み出している。

今ある資源を活かして

「しごと+観光」「研修×自然体験」は現代では重要な考え方である。今ある資源を活用しながら、誰もが安心して働ける環境を整えることで産業振興が活性化するのではな

新潟県上越市

地域に根差した活動

農業の働き手を確保

新潟県上越市の清里区では、特定地域づくり事業協同組合「星の清里協同組合」が令和



4年4月4日に設立、同年5月16日に認定された。中山間地域に位置する清里区は、棚田での稲作も多く、高齢化に伴う働き手確保の仕組みづくりなどの課題解決に取り組んでいる。他分野事業者との連携を視野に入れ事業拡大を目指しており、今後も地域に根差した活動継続を期待する。

広域での協同活動が必要

将来にわたり農業を産業として成り立たせるためには、特定地域づくり事業協同組合にとどまらず、広域での協同活動は避けられない。また、若者が魅力を感じる農業政策が必要と考える。

子どもの未来を応援

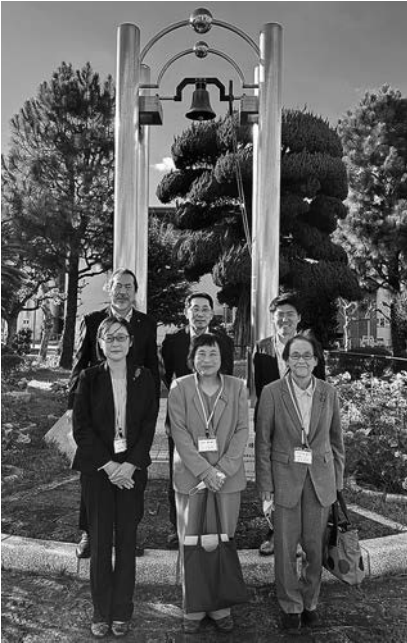
教育民生常任委員会

教育民生常任委員会とは

主に、福祉課・健康長寿課・文化スポーツ課及び教育委員会の所管に属する事項について調査研究し、その課題に対応します。

委員紹介

小川文子委員長、水本淳一副委員長、高橋恵委員、横澤駿一委員、昆秀一委員、谷上知子委員



子どもにも焦点を当てて

教育民生常任委員会の今期のテーマは、「子どもから高齢者までしあわせに生きる環境整備」。10月31日から11月2日にかけて先進地を視察し、課題解決の糸口を探りました。

兵庫県相生市 「11の鍵」で

人口減少に歯止め

兵庫県相生市は現在、子育て・定住施策としてさまざまな事業を展開しており、その中でも特徴的な事業を「11の鍵」として実施している。

無償・無料化が課題

相生市では、子育て・定住の手厚い支援が行われているが、中でも高校生までの医療費無償化、給食費の無料化は兵庫県全体で進んでいる。

本町においても実現に向けて取り組むべき課題である。

大阪府門真市

セーフティネット強化

子どもの未来を応援

大阪府門真市は、支援の必要な子どもがもれなく救われるよう、セーフティネットの強化を目的に「子どもの未来応援ネットワーク事業」を実施。子どもの未来応援団員の育成や子どもの未来応援チームを立ち上げ、子どもの貧困対策に力を入れている。

子どもの可能性を広げる

子どもの健全育成に積極的なことが強く印象に残った。支援を必要としている人を早期発見し、対象者に応じたサポートの更なる構築を図り、子どもの可能性を今以上に広げられるよう、本町でも取り組まれない。



奈良県葛城市

AI活用し

子どもの相談体制構築

奈良県葛城市では、子どもの認知度100%のAIによる相談システムを構築。子どもたちが入力した情報をAIが感情分析し、隠れたリスクを早期発見するなど、先進的な事例に触れた。

切れ目ない支援と関わりを

AI相談室を運営する葛城市子ども・若者サポートセンターは、福祉と教育が協働している組織で、教育委員会から独立し福祉的観点から設置され、多くの臨床心理士が在



席している。AI相談システムは中学校卒業後も継続利用でき、半永久的に寄り添えることから切れ目ない支援と関わりを可能にしていると感じた。本町においてもこのような組織の設置が望まれる。

“議員をより身近な存在に感じた”

町民の思い受け止め より良いまちに

町民と議員との関係を深め、より良いまちづくりや議員活動の理解促進につなげるため「町民と議員をつなぐ会」を11月11日、12日に開催。両日あわせて計23人が集まり、議会や議員に関することや住みよい町にするための意見など、多くの町民の声を聴くことができました。



11月11日（土） やはば一くでの様子

はじめての参加者

全体の約半数に

2日間合わせて、初参加の方が11人となり全体の約半数を占めました。また、20代や40代の方、女性の参加もみられ、さまざまな方からの議会や議員への関心が感じられました。

アットホームな

感じがよかった

参加者が回答したアンケートの意見欄には「時間がもう少しあれば」「アットホームな感じがよかった」「意見はできる限り実現してほしい」など、肯定的な感想や議員への期待が多く寄せられました。



11月12日（日） 矢巾町公民館での様子



つながり、大切に

今後の活動に生かす

今回からタイトルを「町民と議会との懇談会」から「町民と議員をつなぐ会」として開催しました。

4月の改選により若い議員が増えたこともあり、子育て中の若い方の参加も多く、子ども達が遊ぶ公園の整備や遊具の充実についての意見をいただきました。

年配の方からはデマンド交通などについての要望や利便性についての問題提起があり、他にはボランティアについて、参加しやすい環境をつくるべきとの意見や、子ども達に本町の昔を映したフィルムを見せてはどうかなど多くの意見が出され、町民の方々の熱い思いが伝わりました。

私たち議員は、町民の声を町政に活かすのが一番の仕事。ご意見は今後の議会活動に反映させていただきます。

広聴分科会副委員長

高橋 安子



議会を傍聴して



たかだて ちえこ
高館 千枝子さん
(西徳田2区)

国会が、与党の政治資金問題で揺れる中、本町議会の正当性を案じていた矢先、傍聴の機会があり、12月8日に傍聴しました。特に印象的なことを記述します。

まず、質問する議員が町民の意見を真つすぐに受け止め、高い問題意識で質問する真摯な姿勢に尊敬の念を抱きました。中でも、生命の存続に必要な不可欠な「水質の安全」や「農業問題」に関する町の政策の現状解決を求める質問に対し、国や県の壁に阻まれ、解決しようにも前に進めないことが多々あるという町長の答弁に胸が締め付けられました。

道路破損の通報は「やはナビ!!」で! ～アプリに機能が搭載されています～

アプリのダウンロードはこちら



iOS端末の方



Android端末の方

令和5年12月4日にリリースされた、住民総合ポータルアプリ「やはナビ!」には、道路破損を通報できる機能が搭載されています。

現在は

令和4年6月会議

質問 道路破損による事故を未然に防ぐため、住民から派遣連絡を目的とした「道路管理通報システム」を構築する考えは。

回答 システム構築には多くの経費がかかる。パトロールを強化し早期把握、早期対応に努める。

追跡
過去に質問したことがどうなっているのか調査しました。
あの質問はどうなった



アプリの操作イメージ

議会からのお知らせ